

授業科目名	観光経営学	担当教員	高橋 一夫
必修の区分	選択		
単位数	1 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1 年 第 3 クォーター		
講義内容	<p>経営学が特に研究対象とするのは「企業」や「会社」と呼ばれる組織であり、経営学の理解は企業のマネジメントを行うための第一歩である。観光においても、我々に情報を提供し予約・決済の役割を担う旅行会社、居住地から観光地までスムーズに運んでくれる航空会社や鉄道会社、ゆっくりと温泉につかって美味しい食事に舌鼓をうつ旅館、その土地ならではの経験をさせてくれるアクティビティ提供会社などが存在する。こうした企業のトップは組織をどうつくり、社員のやる気どうやって維持しているのだろうか。</p> <p>この講義では経営学を概観し、基礎的な理論や知識、フレームワークを観光関連企業にあてはめながら講義する。</p>		
到達目標	<p>1. 経営学の基礎的な理論や知識を理解する</p> <p>2. 観光関連企業の経営に関する理論や知識を身につける</p> <p>3. 観光関連企業の現状と課題を知り、その解決の方向性について理解する</p>		
授業計画	<p>1. 観光経営の基礎－ヒト・モノ・カネをどう扱うか</p> <p>2. サービス経営のマネジメント</p> <p>3. 経営戦略と競争戦略－組織経営の理念と戦略の設計－</p> <p>4. 授業 3 の議論をもとにケースの紹介（スターバックスなど）</p> <p>5. 第三セクター（地方公私合同企業）のマネジメント</p> <p>6. 授業 5 の議論をもとにケース紹介（DMO など）</p> <p>7. インセンティブシステムとリーダーシップ</p> <p>8. 授業 7 の議論をもとにケース紹介（黒川温泉、ハウステンボスなど）</p> <p>9. サービス人材のマネジメント</p> <p>10. 授業 9 の議論をもとにケース紹介（リッツカールトン大阪など）</p> <p>11. レジャー企業の多角化のマネジメント</p> <p>12. 授業 11 の議論をもとにケース紹介（温浴施設・カラオケなど）</p>		
事前・事後 学習	<p>予習：参考文献から対応ページを連絡するので、一読しておくこと。</p> <p>復習：講義資料のキーワードを再度学びなおしておくこと。</p>		
テキスト	毎回講義資料を準備する。		
参考文献	<p>加護野忠男、吉村典久編著『1 からの経営学第 3 版』2021 年、碩学舎</p> <p>伊藤宗彦、高室裕史編著『1 からのサービス経営』2010 年、碩学舎</p> <p>岡本伸之編著『観光経営学』2013 年、朝倉書店</p> <p>上林憲雄他著『経験から学ぶ経営学入門第 2 版』2018 年、有斐閣ブックス</p>		

成績評価 の 基 準	定期試験 70%、授業中課題 30%
履修上の注意 履修要件	観光産業分析とセットで受講することが望ましい（必須ではない）。
実践的教育	該当しない。
備考欄	定員超過の場合、抽選により履修者を選定する。